



# 清水けんいち 市政レポート

政策討議資料  
第43号  
2019年1月

## 【ご挨拶】

健やかに、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年が皆様にとりまして、ご健勝で幸多き年になりますよう。心からお祈り申し上げます。日頃からのご支援ご協力に、心より感謝申し上げます。

議員活動を市民皆様に御報告する事で、少しでも開かれた政治にしていきたい。皆様と力を合わせて「住みやすく・暮らしやすく・子育てしやすい街」深谷を実現していきたい！

そうした強い思いで、「市政レポート」を発行して参ります。

この市政レポートは私の分身です。毎号ファイルに綴って読んでもらっている子は幸せ者で、そのままポイされている子は涙を流しているかもしれません。

皆さんにお願いします。どうぞ、この子を可愛がってあげてください。

## 【議会報告】

深谷市議会 平成30年度 第4回定例会12月議会が終了しました。

### 主な議案

- ・平成30年度一般会計補正予算・第3号（可決）
  - ・国民健康保険条例の一部を改正する条例（可決）
  - ・行政組織条例の一部を改正する条例（可決）
  - ・財産の取得について（可決）
  - ・空家等対策の推進に関する条例（可決）
- （他、市長提出議案11件・議員提出議案2件・請願2件）

## 深谷市立地適正化計画が策定されます。（概ね20年計画）

立地適正化計画とは、全国的な人口減少・少子高齢化の中で、高齢者や子育て世代にとって、安心できる健康で快適な生活環境を実現する事や、財政面及び経済面において、持続可能な都市経営を可能とする事が、まちづくりの大きな課題になっています。こうした中、医療・福祉施設・商業施設や住居などが、まとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通により、これら

の生活利便施設などにアクセスできるなど、福祉や交通などを含めて都市全体の構造を見直し、『コンパクト・プラス・ネットワーク』の考えを進めていくことが重要であり、平成26年に都市再生特別措置法が改正され、行政と住民や民間事業者が一体となって、コンパクトなまちづくりに取り組んで行くために、市町村が策定する立地適正化計画制度が創設されました。

本計画は2040年までの概ね20年計画で、5～10年程度で定期的に計画の進捗状況を確認し見直しが行われます。

## 深谷市立地適正化計画の具体的内容

計画では、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導する区域と居住誘導区域を設定し、子育て世代の「郊外等」から「市街地」への転居、及び、「市外」から「市街地」への転入の促進に向けて、居住誘導区域全域に居住密着型の都市機能誘導区域・誘導施設を設定します。そうすることで、子育て環境の充実を目指すとともに、従来住んでいる高齢者・障がい者の生活利便性の向上を図るものです。

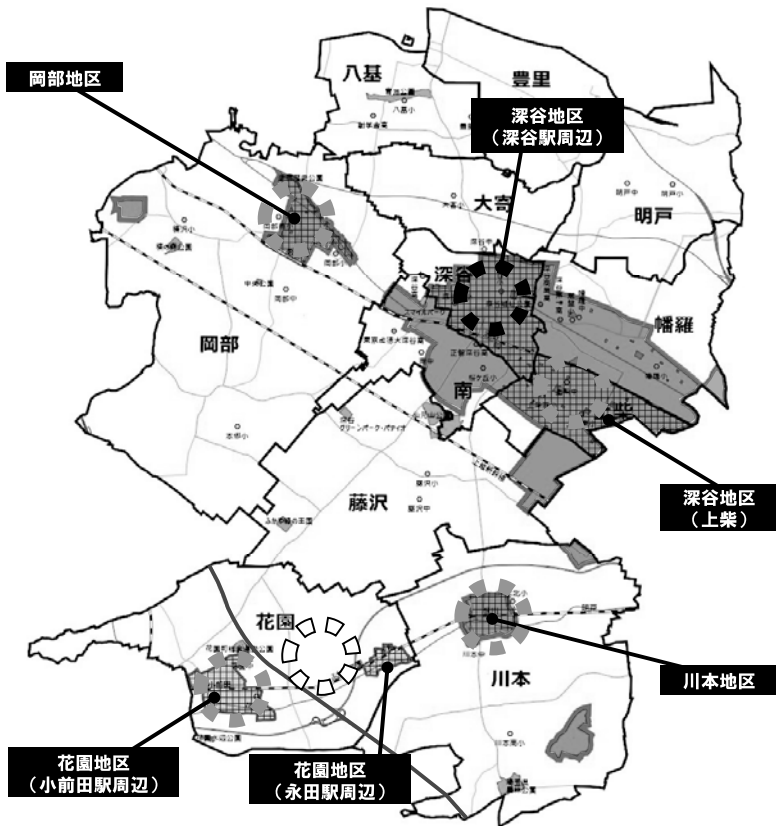
※計画エリアは、深谷駅周辺、上柴地区、岡部駅北口、武川駅周辺、小前田駅周辺、永田駅周辺の6エリアとなっております。

## 清水の私見



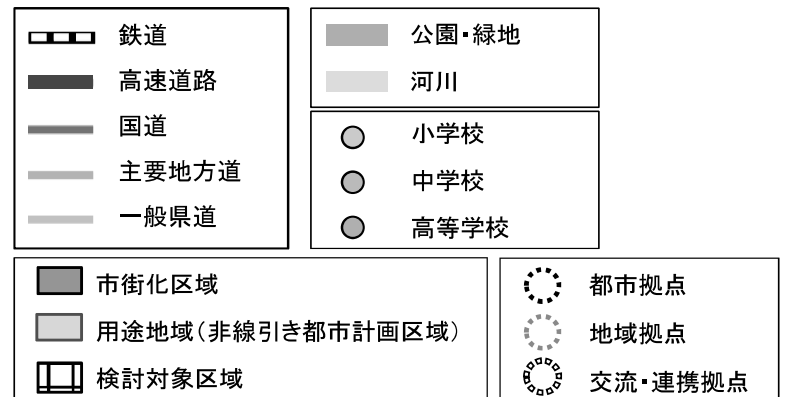
人口減少問題に加え少子高齢化の問題は、我深谷市でも大きな問題になりつつあり、2年前の2016年に立地適正化計画の策定を一般質問で取上げましたが、策定に約3年掛かってしまいました。また、計画作成に関しては、そのほとんどが、コンサルタントに委託した物であり、現地を良く観ていないように感じます。加えて、実際にそこにお住まいの市民皆様のご意見を聞いていないというのも非常に残念でなりません。本格的な議会審議は3月ですので、修正点を調査研究を行い提言して参ります。

## 拠点集積型の都市機能誘導区域・誘導施設



### 基本的な考え方

- ・拠点集積型の都市機能誘導区域・誘導施設については、深谷市都市計画マスタープラン（平成24(2012)年3月）における「都市拠点」「地域拠点」周辺等の歩いて行ける範囲で設定します。
- ・具体的には、「深谷地区（深谷駅周辺）」「深谷地区（上柴）」「岡部地区」「川本地区」「花園地区（小前田駅周辺）」「花園地区（永田駅周辺）」を対象に設定します。



# 12月10日 清水健一の 一般質問と答弁(要約)



## 「教えありて、類なし」(論語)

人間には、生まれつき、上・中・下と言った種類などと言うものはない。人は、どれだけ良い人物に出会い、どれだけ良い影響を受けたかによって、差が生じる！という教えです。  
肝に銘じて精進して参ります。

議席番号15番・清水健一、発言通告書に基づき質問を行ないます。

### 質問1 “子ども子育て支援について”

市立幼稚園10園(明戸幼稚園は休園中)の就園率が約15%と年々減少しているが、幼児教育の質の向上を、どのように行っていくのか伺います。

**答弁** 市立幼稚園の再編を行いながら、これまでの教育実践の成果を活かし、幼児教育の質の確保・充実に努めて行くことが課題であると認識しておりますので、まずは、教師の資質・能力向上に努めて参ります。

**再質問** 平成31年10月から、3～5歳児の幼児教育の無償化が始まる予定であり、市では、幼稚園の再編を行い3歳児の受入れを行う予定だが、新園(旧メディカルセンター跡地に建設予定)以外の7園は、年齢別定員が一律となっているが、人口動態や私立保育園の立地状況を考慮しての判断なのか伺います。

**再答弁** 定員数はあくまで上限であり、入園できる環境を整備していくものです。

## 深谷市立幼稚園における保育サービスの向上及び再編方針

### 1 保育サービスの向上

教育委員会では、子供を安心して育てることができる環境を整え、また、多様化する保護者ニーズに対応するため、深谷市立幼稚園の保育サービスの向上を検討してきました。

このような中、国においては、子育て世代の負担軽減措置として、幼児教育の無償化が打ち出され、平成31年10月より、3～5歳児の幼児教育の無償化が始まる予定となっています。現時点では、保護者の動向は不透明な部分がありますが、3歳児については各施設への入園希望者が増える可能性があります。

こうしたことを踏まえ、平成33年度から全園で次の保育サービスを実施します。

3歳児受入れ

平日の預かり時間の延長

長期休業中の預かり保育

毎日の給食の提供

### 2 学級編制基準

平成33年度から全園で保育サービスを向上させると同時に、一定の集団規模を確保し、幼児教育の充実を図るため、1学年あたりの学級編制を次のとおりとします。

3歳児：10人～20人(25人まで可)※

4歳児：10人～30人(35人まで可)※

5歳児：10人～35人

※副担任を置いた場合

### 3 再編

平成33年度からの保育サービスの向上にあたり、小学校校舎内に入っている幡羅幼稚園、明戸幼稚園(休園中)では3歳児の保育室を確保できません。また、近隣の常盤幼稚園においても、3園全ての3歳児を受け入れる余裕はありません。

こうしたことから、これらの地区で3歳児受入れを実施するために、3園を再編し、新園を設置し、平成33年度の開園を目指します。

今後は、幼児教育の無償化に係る状況を見据えつつ、3年ごとに深谷市立幼稚園の就園状況を検討し、再編する時期を見極めていきます。

(深谷市資料から抜粋)

### 【清水の提言】

深谷市の教育は、全国的に見ましても進んでおりますが、幼児教育には疑問を感じております。まず、子どもの預かり時間が、午前8時30分～午後2時迄というのが問題であり時代に即しておりません。小学生の場合は、学童保育で補えますが、同じような仕組みを考える必要があると思います。



### 【質問2】 “花園地区の公立学童保育施設について”

市内19の小学校区に24の公立学童が整備されているが、花園地区には整備されておらず、公立の保育料金6千円に対して、私立では高い所で1年生1万5千円となっています。預かり時間も公立は延長で午後7時迄ですが、私立は6時40分と言う状況の中、子どもの権利条約、児童福祉法の観点からも、花園地区に公立学童は勿論のこと、「児童館」や「子ども食堂」などのモデル施設を設けるべきと考えますが、いかがか？

**答弁** 花園地区に関しましては、隣接地に民間学童が運営されており、公立を整備せずに現在に至っておりますが、公立学童施設の有無を含めて検討して参ります。

**【清水の提言】** 平成28年に児童福祉法が改正され、児童の福祉を保障するための原理として、「全ての児童は、児童の権利に関する条約の精神に則り、適切に養育されること」と規定されました。児童の権利に関する条約第3条に示された、子どもの最善の利益をいかにして実現していくか、児童福祉事業である学童保育事業に限らず放課後児童対策全般を、しっかりと整備していくことを強く求めます。

### 【質問3】 “生活道路整備について”

生活道路の整備は、自治会要望により行方とされているが、毎年、約400件以上が未整備となっております。要望を受けてから行うと言うのではなく、地域の皆さんと話し合いの場を持ち、地区整備計画を策定して行方とすべきと考えますが、いかがですか。

**答弁** 現在は、各自治会からの要望を、道路幅員や側溝の有無、沿線住居の状況や通学路指定などの生活環境を現地調査などによって、評価に反映し、評価点の高いところから整備を行っていますが、評価項目の公表や分類結果の説明などを検討して参ります。

### 【質問4】 “水道事業の安定経営について”

1年前から一般質問で取上げている、水道事業の安定経営についてですが、市内に約1,100kmある水道管の敷設替え工事ですが、毎年約6億円をかけて11kmしか行なえない状況では、100年掛かります。現在採用している、鑄鉄管からポリエチレン管に変えれば、安くて長持ちになると提言し、実際に採用して検証するとの事でしたが、検証結果について伺います。

**答弁** 針ヶ谷地区内で実際にポリエチレン管を採用し工事を行いました。結果的に約12%の経費が削減できましたので、平成31年度は、更なる検証のためポリエチレン管での水道配管敷設替え工事を増やして行きたいと思っております。

### 【質問を終えて】

深谷市が市民皆様に取りまして、“住んで良かった！”と思っただけのよう、議員として精一杯、調査研究をして提言を行っていますが、なかなか、直ぐには結果が出ない事業もあります。でも、粘り強く、誠意と熱意を持って活動し続けていくことで、道路照明灯LED化による10年で2億円も経費が削減されたり、小中学校の水道料金が年間約685万円も削減され、そうした削減効果を教育や福祉に活用できます。こうした活動を今後とも続けて参りますので、ご支援ご協力を宜しくお願い致します。



# 清水健一連絡先

〒369-1246 深谷市小前田2406-8  
TEL 048-584-0395

FAX 048-584-0396

ホームページ：http://www.shimizu-kenichi.jp(ブログ公開中)

E-mail：info@shimizu-kenichi.jp



### プロフィール

昭和36年1月27日生まれ(57才)

家族構成 妻、長男、長男妻、長女、次女、孫2人(8人家族)

- 埼玉県立熊谷工業高校 卒業
- 社団法人深谷青年会議所 第35代理事長
- 深谷市PTA連合会 会長
- 深谷市立花園小学校 PTA会長
- 深谷市立花園中学校 PTA会長
- 埼玉県立深谷高校 PTA会長
- ふかや市商工会 副会長
- 深谷市議会 副議長

このレポートは、今、問題になっている「政務活動費」を使わず清水個人の自費で発行しております。